

(目的) 四条流の鯉の切形に関する口伝書が古文書として遺されているが、それらを通して四条流の鯉の切形を検討する。また、『国書総目録』や『日本料理法大全』の中に記録の見られない下記の古文書③～⑦のうち、写筆年の無い⑤⑥については、既存の文書と比較し、その成立年代を推測した。

(方法) 古文書は、①料理切形秘伝抄『三十六之鯉 秘伝』寛永19年(1642)、②四条家流『切揃鯉之巻 松』、③仮題『朝鮮人献立』宝永2年(1705)、④『四条家切揃巻 上』『四条家切揃巻 下』安永4年(1775)、⑤仮題『鯉切方』、⑥仮題『鯉切方絵巻』等を比較し、⑦『式包丁書』元文1年(1736)その他を参考にした。

(結果) ③は前報で報告の福田伊右衛門より中村吉右衛門に伝授のもの、④は戸川左五左衛門より戸川専右衛門に伝授のもの、⑦は杉山善太夫によるもの。⑤は応仁2年(1468)に四条良意より洲上吉教に伝授したものを、江戸時代の前半に写筆したものであると考える。⑥は彩色の美しい巻物であり、江戸時代の後半のものと考え。鯉の切形図の記載数は ①47、②42、③11、④64、⑤21、⑥27である。これらの切形は、元服・袴着などの通過儀礼、花見・紅葉見など四季の行事、船中・海道などの旅等に分類できる。①～⑥に共通の切形図はないが、5冊の古文書に共通の切形図は、長命・龍門・二鯉・移徒・出陣・元服・花見の7種であり、4冊共通のものは、月見・婿取嫁取・海道等11種ある。同名の切形図では 同じもの・ほぼ同じもの・異なるものがあり、現在検討中である。今後さらに資料をさがし、切形の変遷を探ってみたい。